

経済概況

金融政策レビュー - 2024年8月

2024年8月14日(水)

「委員会は政策金利(OCR)を5.25%に引き下げることにより金融政策の抑制レベルを緩和することに合意した。」

なぜならば:

「ニュージーランドの年間消費者物価インフレ率は、金融政策委員会の目標範囲である1.0%~3.0%内に戻りつつあるため。」

全てが同じ方向を向いているので:

「調査されたインフレ期待、企業の価格設定行動、消費者物価指数、そして様々なインフレコア指数は、低く安定したインフレと一致して推移している。」

それは予測されていた事であり驚くべきことではありません:

「委員会は7月の金融政策会議にて観測された国内経済活動の弱まりがより明確で広範囲になってきているとの指摘をした。」

実際はどうか?

「委員会は現在の景気低迷の考えられる理由について議論した。」高金利と何か関係があるのでしょうか?

しかし舞い上がりすぎないように:

「委員メンバーたちは、国内のインフレ圧力が引き続き解消されることを確実にするためには、しばらく金融政策を制限的に続ける必要があると指摘した。したがって、追加緩和のペースは、価格設定行動が低インフレ環境と引き続き整合的であり、インフレ期待が引き続き固定されているという確信を委員会がもてるのが条件となるだろう。」

コメント:

どこから始めましょうか?

最も興味深い観点は、RBNZ(NZ準備銀行)の最新のインフレと政策金利(OCR)の見通しがかなり低く修正されていることです。例えば、第3四半期の年間インフレ予測は3.3%から2.3%に1.0%引き下げられ、年末の政策金利(OCR)予測は5.7%から4.9%に引き下げられました。これらは大幅な改定であり、先に進むほど予測幅が大きくなります。また、経済回復に伴い野心的なGDP成長予測も掲げているようですが、経済が急速に回復するだけの十分な余力があるのか、それとも経済が回復し影響が出るまでにさらに時間がかかるのかという疑問が生じます。しかしこれらの予測にもかかわらず、声明はNZ統計局による方法論の変更により、データの構成に関してさらなる不確実性が生じていることを認めました。

マーケットへの影響:

今のところマーケットへの影響は抑えられていますが、この記事を書いている現時点では会合後の質疑応答はまだ始まっていません。

NZドルの動きが大半を占め、NZドルは-0.7%下落しました。これにより、NZD/USDは昨日の0.6035のピークに向かって戻り、NZD/AUDは0.9100以下に戻りましたが、最大の下落はNZD/JPYで発生し、-1.0%下落しました。

スワップレートも低下していますが、スワップレートは会合前の取引水準よりわずか1~2bpsだけ低く、まるで「嵐の前の静けさ」の状況のようです。

*日本語翻訳文と英語の原文に相違がある場合には、原文の記載事項を優先します。



BANCORP
BANCORP TREASURY SERVICES LIMITED

Barrington
TREASURY SERVICES

Barrington
ASSET CONSULTING



BANCORP
BANCORP CORPORATE FINANCE LIMITED